

迫り来る東海・東南海・南海の巨大地震

内閣府中央防災会議 2011年12月「東海・東南海・南海の巨大地震を暫定的にM9に高める」との発表内容に基づき、「想定」という許される枠の中での検証内容を、皆様にお伝えしていきたいと思えます。あくまでも加古川グリーンシティにおける想定であり、全国を一律に考えたものではありません。

想定日時 2012年12月13日(木) 13時

M9の巨大地震が発生

「加古川では震度5強～6弱程度の揺れを感じた」

シリーズ 「災害への想定」 Story4

今回は強烈な地震の後にやってくる長周期地震動のゆっくりとした長い揺れがおさまった後を検証してみましょう。

さあ、揺れはおさまったが、突然のことで心の動揺はおさまらず不安が大きくなります。「何が起こった？」と頭の中では全く判断がつかない状態。「地震？地震なの？」とひとりの場合には特に判断が遅れます。そんな時は、ラジオやテレビのスイッチを入れましょう。一番の不安材料は“情報が無い”ことです。情報を手に入れることで、落ち着きを取り戻すことができます。また、大地震では停電になる場合が多く、電池式ラジオは防災グッズの中でも必需品です。

では、ラジオをつけた場合にどのような情報が流れてくるのか？大地震発生後の、ニッポン放送で流される予定の情報内容を確認してみましょう。

大地震直後は「注意事項や注意喚起」のような内容が放送されます。揺れている間の放送は「身の安全確保・火の元の確認・津波の警戒」などです。揺れがおさまってからは「余震対策・ガス漏れ注意・火を使用しない・協力して消火や救助」など、呼びかけが放送されます。

以下に具体的な放送内容をご紹介しますので、備えを考えてみましょう。

●『揺れは一応おさまっていますが、まだ余震の可能性があるので、もう地震はおさまったと、安易に考えないでください』

●『デマや噂に惑わされず、冷静に行動してください。自分勝手な行動はしないでください。勝手な憶測を言うとデマの元になります』

●『ガス漏れの恐れがないことを確認するまで、タバコを吸わないでください。マッチやライター、ロウソクも使わないでください。また、電気のスイッチを入れたり切ったりしないでください。漏れているガスに引火する恐れがあります』

●『電話は回線に限りがあります。消防車や救急車の必要な人以外は、電話の使用は控えてください』

●『ガス・水道・電気は注意して隅々まで点検してください』

●『家の中でガラスや食器が割れている場合、ケガをしないように、底の厚い丈夫な靴を履くようにしてください。また、軍手などの厚手の手袋も用意してください』

●『クローゼットや食器棚の中も確認してください。戸を開けた途端に、中の物が崩れてくる可能性があります』

●『棚の上の物や、テレビの台などを点検してください。すわりが悪くなっていると、余震で落ちてくる可能性があります』

●『隣近所と連絡を取り合い、お互いに協力して助け合いましょう』

●『子どもやお年寄りに注意を向けましょう。小さい子どもは、例え大丈夫そうに見えても、不安を解消するために、優しく話しかけ、そっと抱いてあげてください。ひとり暮らしのお年寄りが近所にいたら様子を見てあげてください』

●『むやみに外へ出ないようにしましょう。上から落ちてくる物などでケガをすることがあります』

以上のような内容が放送される予定です。

災害時では、どんなに冷静な人でも気が動転してしまうものです。そんな時に大切なことは、近くの人たちと協力して大きな声で安全を確認しあうことです。

また「**落ち着け!**」「**落ち着いてください!**」のひとりで、周りの人のパニックを防ぐこともできます。

パニックになってしまうと、逃げ惑い、人を押し退けたり、人を突き飛ばしたり、倒れた人の上をのり越えて逃げるなど、考えられないような行動をしてしまいます。まずは「**落ち着くこと**」です。さらにその時、あなたに余裕があれば「**しゃがんで頭を守ってください**」などの、注意喚起を発することでもパニック防止になります。誰かが落ち着いた行動をとることができれば、無用なケガや無用な死を抑止できると思います。

「**みなさん、落ち着いてください**」の発声も、防災訓練の中に盛り込めば、いざというときに発することができるようになるのです。

勇気を出して大きな声で言う「みなさん、落ち着いてください」この言葉が「あなたの大切な人を守ること」に繋がっているのです。

・・・おや？ラジオからの情報に変化がみられた。

『ガスや電気・水道が停止している場合しばらく自分たちだけで暮らしていくための準備をしてください』・・・(次号へ続く)

参考：生き残るための75の教え

